

1 これからの防除について

本年の黒星病は、生産者の皆様の精力的な対策の実施によって、発生は極少で推移していましたが、8月の多雨の影響により「幸水」果実への黒星病の発生が見られました。

今後、徒長枝等の葉の黒星病秋型病斑（右写真）から降雨により、芽に黒星病菌孢子が侵入し翌春の芽基部病斑発生の原因になります。18～20回目は来年の芽基部病斑発生防止のための防除となります。



写真 黒星病秋型病斑（薄墨色の黒い斑点）

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	使用時期 (収穫前日数)	散布量	主な対象 病害虫	防除 実施日
18	10月21～ 23日頃	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日 (※)	300 g/10a	黒星病	
19	10月31～ 11月2日頃	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日	300 g/10a	黒星病	
20	11月10～ 12日頃 80%落葉後	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日	300 g/10a	黒星病	

【注意事項】

- ※「収穫3日前」の薬剤は、散布後3日間（72時間）できません。「新興」等、周囲の収穫園にも十分気を配りましょう（万が一、散布後72時間以内に収穫した場合は、果実を廃棄してください）。
- ※結実の少なかった樹では、樹勢強化による徒長枝の多発で薬剤が届きにくくなるので、掛けムラが無いように丁寧に散布してください。

2 本年も必ず落葉処理を実施して下さい！！

黒星病秋型病斑が着いた落葉を放置すると、翌春、地表面から黒星病菌孢子が飛散し、幼果への病斑発生の危険性が高まります。

- （1）実施時期：11月中下旬（落葉後）～2月末
- （2）落葉処理の方法

- ①落葉処理の精度が低いと十分な効果を得ることができません。
- ②園地周囲や側溝、幹元の落葉（次ページ図）は、松葉ぼうき等で集めて処分する他、園地内部でモアやロータリー等を使用する場合は、低速で走行する等丁寧に葉を粉碎し、すきこんで下さい。

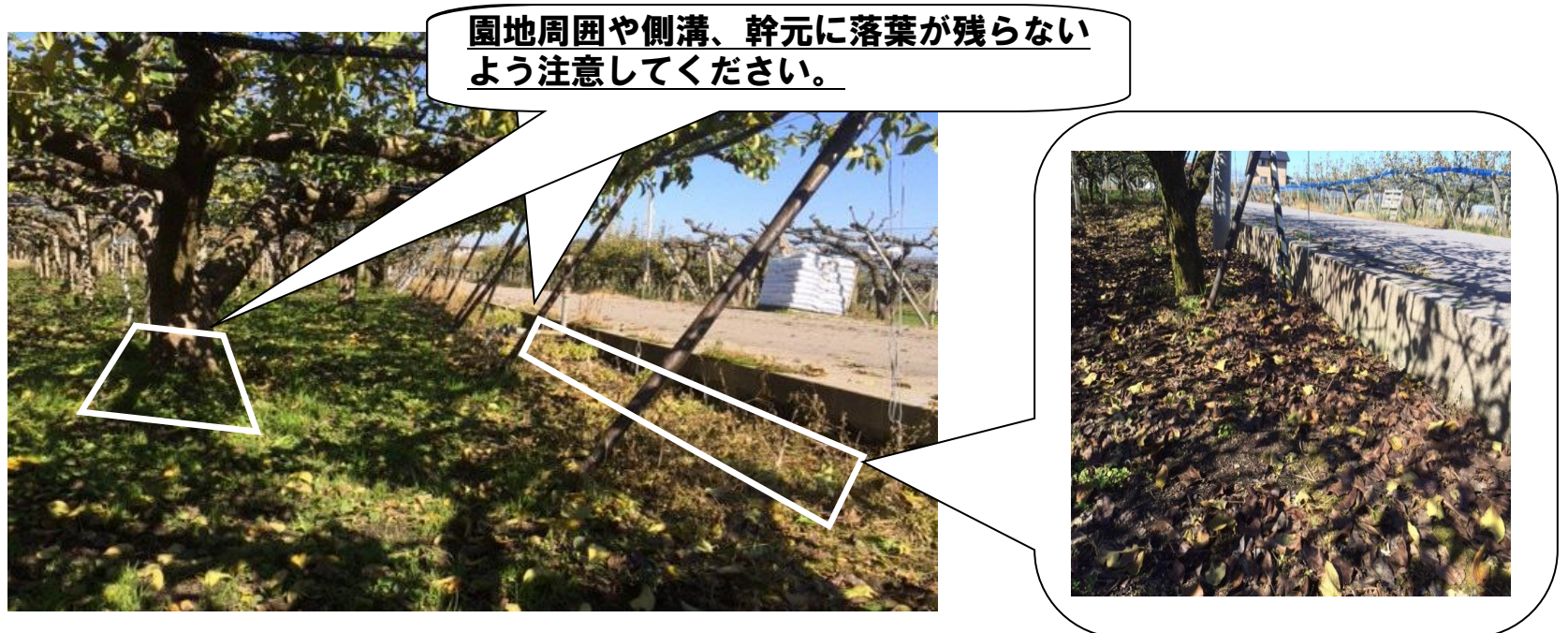


図 園地周囲や側溝、幹元の落葉

【処理機械別の機械速度、処理時間（目安）】

処理機械	機械速度、処理時間等
乗用モア	2 回処理（1 回につき 10 a を 45 分で）
ロータリー	1 km/h 以下の速度で、10 a を 60 分以上かける
乗用モアと ロータリーの併用	・モア：10 a を 30 分かける ・ロータリー：1.5～2 km/h の速度で 10 a を 45～60 分かける

※落葉処理の未実施あるいは処理精度の低い園地は、自園地のみでなく、隣接園地（他の生産者）にも被害を及ぼします（産地全体での取り組みが重要です）。

（3）落葉処理の留意点

- ①雑草が繁茂している場合は、落葉をかき集めやすくするため、あらかじめ草刈りや除草剤散布等をしておきましょう。
- ②葉の原形が地表面に残ったままだと、病原菌が越冬します。機械による粉砕や耕起は十分に行ってください。
- ③チッパー等で粉砕したせん定枝を園内に放置しても、黒星病の発生には影響しないとされています。ただし、粉砕後に落葉と一緒にロータリー等で耕起し、すき込むと土壌性病害（白紋羽病）の発生を助長させるので、注意して下さい。